

1. 事業の必要性・概要

近年、我が国の光化学オキシダントの濃度レベルは上昇傾向にあり、光化学オキシダント注意報の発令地域も広域化している状況にある。

そのため、光化学オキシダント濃度の低減に向け、平成19年12月に「光化学オキシダント・対流圏オゾン検討会」中間報告で課題として示された、①調査研究・モニタリングの一層の推進、②国内における削減対策等の更なる推進（原因物質と考えられる揮発性有機化合物（VOC）に係る対策を含む）、③国際的な取組の推進に取り組んできたところである。

しかしながら、これまでの対策の推進にも関わらず、光化学オキシダント濃度の改善が見られないことから、当該対策の効果を検証・評価し、新たな科学的知見を収集するとともに、今後の対策のあり方について検討する必要がある。また、健康被害の未然防止の観点から、濃度予測モデルの精度向上が求められている。

なお、光化学オキシダントと微小粒子状物質（PM2.5）は、その原因物質の一部が共通していることや生成メカニズムが密接に関連していることなどから、既存の取組の一部を微小粒子状物質（PM2.5）等総合対策費に統合した。

2. 事業計画（業務内容）

調査項目	H23	H24	H25
(1)モニタリングの充実			
①光化学オキシダント精度管理体制の運用管理			→
②大気中のVOC濃度に係るモニタリング調査			→
(2)発生源・生成機構の把握※	→	→	→
(3)シミュレーションモデルの精緻化※	→	→	→
(4)対策の検討・実施			
①VOC削減対策推進のための支援及び普及啓発			→
②対策検討			
・新たな知見の収集、検証・評価、調査研究		→	
・今後の対策検討			→

※平成24年度から「微小粒子状物質（PM2.5）総合対策費」に統合

3. 施策の効果

光化学オキシダントの濃度上昇、注意報の広域化等の原因究明を図るとともに、より効果的・効率的な光化学オキシダント対策を実施する。

光化学オキシダント総合対策推進費

光化学オキシダント

- ・濃度レベルの上昇
- ・注意報発令地域の広域化
- ・極めて低い環境基準達成率
(唯一の悪化指標)



大気汚染防止法

(VOC対策)

- ・ベストミックス
- ・3割削減
(中環審意見具申)

光化学オキシダント・対流圏オゾン検討会
中間報告(平成19年12月)

<今後の課題>

調査研究・モニタリングの推進

- ・地域毎の詳細な要因分析
- ・適正な大気常時監視システムの維持

削減対策等の更なる推進

- ・VOC削減対策
(排出インベントリ整備、モデル解析等)

【光化学オキシダント】

予測モデルの確立(H20~H22)



オゾンの精度管理体制の整備(H21)

オゾンの精度管理体制の運用・維持管理(H22~)

光化学オキシダント・対流圏オゾン検討会(H23~)

【VOC】

モニタリング(H18~)

排出量把握(H18~)

シミュレーションモデルの改良(H18~)

VOC削減対策推進のための支援及び普及啓発(H18~)

次期VOC対策ありかた検討会(H22)



微小粒子状物質(PM2.5)等総合対策費と統合

- ・新たな知見の収集(H23~)
- ・既存施策の検証・評価(H23~)
- ・今後の対策のあり方の検討(H24~)

効果的・効率的な光化学オキシダント対策の実施

